

「テクテキスタイル 2011」の開催概況について

- ▶ 世界最大の産業用繊維・不織布の専門見本市「テクテキスタイル展」がドイツ・フランクフルトで5月24日～26日までの3日間開催された。
- ▶ 同展示会は、産業用途に展開される繊維素材（原料）・テキスタイル・最終製品に生産機械なども含めた川上から川下までの全てが対象となる対象範囲の広い展示会で、大手だけでなく中小企業の出展も多く、今回の出展企業数は50カ国・1,207社に及んだ（前回は43カ国・1,195社）。



企業単位の出展以外にも、国・地域単位での集団出展するケースもあり、こちらは中小企業が中心となるものの、フランス・ローヌアルプ地方のブースは非常に華やかな共通デザインのブースで人気を博していた。一方、中国、台湾の共同ブースはパネル中心の展示であることもあってか、上記に比べ人影はまばらであった。



- ▶ 前回開催（2009年）はリーマンショック後であったにもかかわらず、過去最高の23,903人の来場者数があったが、今回はそれを更に上回る24,500人もの来場があり盛況であった。来場者で溢れ返る会場からは、産業用繊維と不織布の世界的な需要の拡大が感じられた。
- ▶ 出展する素材メーカーでは、欧米の大手企業を中心に特定の顧客とのミーティング（商談）の場として位置付けている模様であり、展示物は非常に少なくほとんどがミーティングスペースとなっているブース構成が目立った。
- ▶ 日本からも合繊メーカーを中心に前回は上回る出展があり、積極的に



に欧州での産業資材・不織布の市場開拓に取り組んだが、それぞれの企業での考え方、戦略によって、その取り組み方は様々であった。合繊メーカーでは、帝人（テイジン・アラミド）、東レはミーティング中心のため欧米企業と同じようなブース構成で、欧州の顧客との商談を重視する形態であり、クラレ、旭化成は新開発素材等の商品展示にも力を入れて新規顧客の開拓も考えている形である。その他の日本企業の出展では、小松精練が初めて出展し、欧州向け産業資材分野の輸出拡大を目指して、「国内で採用されている商品の海外での反響を模索している」とのことであった。また、フラットヤーンテキスタイルの萩原工業、重布加工の平岡織染が、新規顧客開拓を目的に自社素材を積極的にアピールしていたほか、伊藤忠システックが韓国 TOPTEC 社製のナノファイバー不織布設備を出展、フェノール繊維「カイノール」の群栄化学はドイツ子会社で出展、JX 日鉱日石もフランス子会社が直交不織布「ミライフ」を中心に出了展した。

▶ 川中・川下段階では、単なる高強力タイプのポリエステルあるいはナイロン等を使ったテキスタイルやその製品での出展も多かったが、素材メーカーの出展では、高強力・高耐熱性のスーパー繊維素材のアピールが非常に多く見られた。その中でも、耐熱防護服やフィルター用途向けのアラミドや PPS 等の高耐熱性素材の展示が注目を集めていた。

▶ 帝人（テイジン・アラミド）、デュポンなどはアラミドを中心とした出展で、商談で訪れる顧客以外にも多くの人が集まっていたが、アラミドを出展している韓国や中国企業にも多くの人が集まり盛況であった。展示ではメタ系だけでなくパラ系についても性能や用途展開を紹介し、熱心に質問する来場者も多かった。特に韓国企業のアラミドは欧州においてかなり認知されつつある状況のようである。



▶ 産業資材分野の重要性は益々高まっているが、テクテキスタイル展への出展企業がこれだけ多いことから分かるように、産業資材分野の具体的な用途は実に幅が広い。欧米企業などでは顧客とのミーティングにおいて、新素材・新銘柄をアピールして、他社素材との一層の差別化を図りながら、顧客での新たな商品開発・用途開発の情報をキャッチすることも重要と考えているように思われる（かなりの規模で出展しており、結構なコストもかかっているため）。その一方で、低コストを武器に欧州市場へ積極的に売り込みをかけている韓国・中国企業は同展示会も新規顧客の獲得を期待できる場として最大限活用しているように見えた。

日本企業もそれぞれの立場で同展示会を活用した出展を行っており、いずれの企業も手応えを得ているようであった。欧州での実績は全世界での展開につながるもので、大手だけでなく中小企業でも同展示会の積極的な活用が期待される。

なお、次回開催は今回と同様フランクフルトにて 2013 年 6 月の予定となっている。

▶ 個別企業ごとの出展概要は以下の通り。

【日本企業】

帝人グループ

テイジン・アラミド：「トワロン」「テクノーラ」

・商談中心のブース構成。

・「テクノーラ」は高強力プラス耐薬品性が高評価。



帝人ファイバー：テイジン・アラミドのブースの一角に出展。

「e l k」・・・車両シート中材、カーシート裏張り

「v - L a p」・・・自動車内装材

「ナノフロント」・・・コスメ向け

東レ

- ・商談中心のブース構成。
- ・欧州で関心の高い PTFE 繊維や PPS 繊維などを出展



トーレ・テキスタイル・ヨーロッパ (T T E L)

- ・溶鉱炉作業員向け耐熱防護服
「サーモガード・モルテン・リベル」
- ・製油所・電力会社等向け防護服
「サーモガード・ハイ・ビジビリティ・
カラーソリューション」

クラレ

- ・商談スペースと新素材の展示
- 「ベクトラン」...導電タイプ「LIBERATOR」を新たに出展
- 「クラリーノ・ティレニーナ」...ウレタン含浸前の状態の
極細不織布を研磨布等に展開
- “ナノファイバー不織布”
- ...耐熱性ポリマー「ジェネスタ」や EVOH を
エレクトロスピンング法でナノファイバー化



旭化成

- ・商談スペースとスパンボンド製品の展示
- 「decob」...ポリエステルスパンボンドのバグフィルター
PPS スパンボンド製も展開を始める
- 「パルシャット」...薄くて強い「プレシゼ」を使った携帯・デジカメ
用ノイズ吸収シート



- 「スマッシュ」...熱成型性を生かしコーヒーフィルター
などへも展開

小松精練

- ・有機 EL 用の密着充填型レジソ
- ・電気ノイズ吸着膜材用のポリイミドフィルム
- ・全熱交換器用のポリウレタン膜材
- 「グリーンビズ」...超微細多孔発泡セラミックス
屋上緑化、壁面用ブロックなど



萩原工業

オレフィン系フラットヤーンテキスタイル

- ・粘着テープ基布のハウスラップ用途への展開
- ・カーペット基布、野菜シートなどのシート類



平岡織染

テント材などの重布の加工（遮熱膜材、高透光膜材）

伊藤忠システック

韓国 TOPTEC 社製のナノファイバー不織布設備

- ・信州大学繊維学部との共同研究
- ・TOPTEC 社は液晶、太陽電池等の製造機械メーカー
- ・ノズル型エレクトロスピンニング法により、1.8m 幅で最大 80m/分の高生産性
- ・透湿防水膜、フィルター用は実績あり。電池セパレーターや細胞培養用が研究段階



群栄化学（カイノール・ヨーロッパ）

フェノール繊維「カイノール」

- ・日本では活性炭素繊維の原料、海外では耐熱防護服や摩擦布用
- ・全体の 1/3 が輸出だが、ロシア、東欧、中国、南米向け等に拡大しつつある。



【韓国企業】

HYOSUNG

- ・ アラミド繊維「ALKEX」
- ・ 自動車用素材（エアバッグ、カーマット等）
- ・ リサイクル素材（ナイロン等）
- ・ 導電糸等の高機能素材



KOLON

- ・ アラミド繊維
「HERACRON」



WOONGIN

- ・ アラミド繊維「ARAWIN」



ポリエステル短繊維



【中国企業】

YANTAI SPANDEX

アラミド繊維（パラ系・メタ系）



【台湾共同ブース】



以上